

たくさんのご寄付、ありがとうございました！

「ソムリエの風」第 35 号などで、会員の皆さんに当会へのご寄付をお願いしましたところ、42 人の皆さんから、768,100 円もの募金が集まりました、ありがとうございました！この募金は当会の周年事業などに、大切に使用させていただきます。（専務理事 鉄田憲男）

今後も、引き続きのご支援を単純に平均しますと、お人約 18,300 円となりますが、最も多かった（最頻値）のは@10,000 円でした。ご寄付は今も募集しています。引き続きのご支援をよろしく願いいたします。

当会の組織を改編しました

当会は昨年創立 10 周年を迎えました。当会の組織は基本的には発足当初の体制を受け継いでいますが、近年は既存のグループでは対応できない新規案件が増えてまいりました。

組織改編の詳細は同封の資料および当会 HP（トップページ右上のバー「奈良まほろばソムリエの会について」4.各グループの紹介）のとおりですが、ねらいは、

- ①講演活動への対応強化
- ②相互啓発体制の整備
- ③新規案件（プロジェクト活動）への取り組み強化

の 3 点です。これに伴い所属の変更や、新たにグループやサークルに参加されたい方は、当会の代表

メールアドレス (info@stomo.jp)宛、お申し込みください。

「認定支援セミナー」に協力



1 級認定支援セミナー（昨年 12/12）

前号で、当会は奈良検定事業をサポートします、とお知らせしましたが、その手始めとして昨年 12 月 12 日（日）、当会は 1 級と 2 級の認定支援セミナーに講師を派遣しました（於：天理大学）。

受講者は 86 人（1 級）と 47 人（2 級）でした。

試験本番の今年 3 月 13 日（日）には、会場内（同大学）での監督や、駅などでの誘導に協力する予定です。



2 級の同セミナー（同日）

「ぱーぷる」とコラボレーション！

1 月 26 日（水）当会は、奈良のタウン情報誌「ぱーぷる」とコラボすることを決定しました。



コラボ締結式で同誌椿野編集長と

具体的には、同誌が Web 上で展開する「ぱーぷるアプリ」に、当会が奈良に関する四択のクイズ問題を出題しています（正解した人には、ポイントがたまる仕組みです）。

クイズは今年 2 月 1 日（火）からスタート。皆さんも、ぜひチャレンジしてください。

当会の万葉本が「かな展」に



大庭松翠さん（県文化会館）

今年 1 月 14 日（金）～16 日（日）、奈良県文化会館展示室で、「翠心会かな展」が開催されました。

翠心会（大庭松翠さん主宰）に所属する会員の皆さんは、当会の『奈良万葉の旅百首』（京阪奈情報教育出版）の百首すべてのかな書きを書道作品にされ、出品してくださいました。

会報紙「ソムリエの風」の発行方法の見直し・会報紙に関するアンケート結果の概要

会報紙「ソムリエの風」に関するアンケート(2021年10月実施)は、400名の会員中204名の方からご回答いただきました。ご協力ありがとうございました。

■会報紙発行方法の見直し

今回のアンケート結果も踏まえ、昨年12月の理事会において、2022年4月以降の「ソムリエの風」について環境に優しい広報活動の推進および会報誌予算の有効活用の観点から、メールでの記事送付及びホームページ上での閲覧に切り替え、紙媒体は年1回送付することになりました。

なお、メールの届かない20名の方には紙媒体の送付を継続します。よろしくお願ひ致します。

■アンケート結果の概要

●会報紙の閲覧状況

「紙媒体をほぼすべて読んでいる」39.7%が最も多く、次いで「紙媒体を流し読みしている(見出しや写真だけ目を通す、関心のある記事だけ閲覧する)」30.9%、「紙媒体を読むが、ホームページも必要に応じて閲覧している」26.0%が続いています。

●会報紙発行方法のあり方

「ホームページで閲覧可能であり、紙媒体の送付を中止して予算の有効活用を図るべき」60.0%が最も多く、次いで「1年に最低1回は紙媒体での送付を希望する」27.3%、「経費はかかると思うが、従来通り年3回の紙媒体の発行・送付を続けてほしい」10.2%が続いています。

●記事投稿者募集等への関心

「原稿は執筆できないが、何らかの情報提供ならば協力したい」40.2%が最も多く、「記事の執筆・投稿に関心があり、できれば参加したい」13.2%、「自分の原稿を校正・推敲してもらえらば、できれば参加したい」11.8%というご意見も各1割ありました。今後、有志の記事投稿者(執筆者)を募集させていただく際は、積極的なご協力をお願いいたします。

なお、2割の方は「あまり関心がない」20.1%との回答でした。

●ホームページの見直し等

(複数回答)

「ある程度の予算を費やしても、ホームページのデザイン・内容を見直したほうが良い」37.4%が最も多く、次いで「一般の人も閲覧できる場合、ある程度の校閲・編集は仕方がないと思う」33.5%、「ブログやSNSを積極的に活用していくべきと思う」31.0%、「閲覧・投稿を会員に限定し、自由に意見交換や

情報提供ができる場を設けてほしい」20.2%が続いています。今後、今回の結果も踏まえてホームページの見直しを検討していきます。

●回答者の主な属性

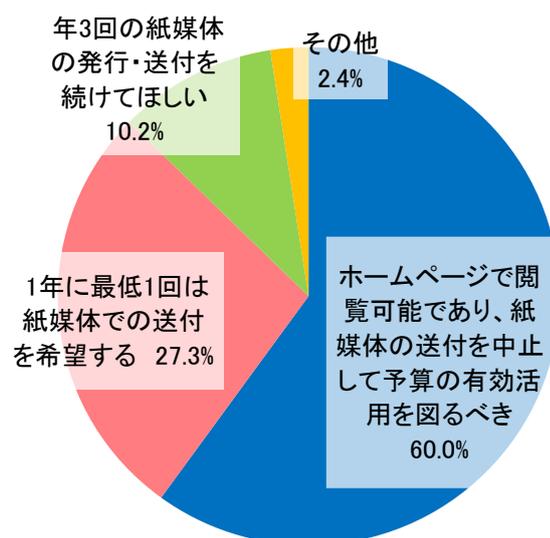
年代は「70歳以上」42.4%が最多、「60歳代」36.9%、「50歳代」16.3%が続く。入会経過年数は「3年未満」30.7%が最多、「8年以上」27.7%、「4~5年」23.8%、「6~7年」17.8%が続く。

■ホームページ閲覧・活用の勧め

「奈良まほろばソムリエの会」のホームページでは、会報紙「ソムリエの風」や「つれづれ日記」のほか、各グループ活動の紹介(「観光ボランティアガイド」、「奈良検定受験講座」等へのリンク)や、会員が過去に執筆した連載記事(かるたで知るなら、まほろば歳時記など)を掲載しています。今後もホームページの積極的な閲覧・活用をお願いいたします。

(島田 清彦)

会報紙発行方法のあり方について



シリーズ「万葉集」

万葉びとの知性（４）

■万葉仮名

万葉前期の歌は漢字本来の意味を生かした表意文字と字音によって用いる表音文字の混じった歌が多く、万葉後期になると字音によって用いる表音文字主体の歌が多くなっています。

●漢字の意味を生かして用いた歌（巻1-51）

原文	姦女乃 袖吹反 明日香風 京都乎遠見 無用尔布久
読下文	うねめ 採女の 袖吹きかへす 明日香 かぜ 風 都を遠み いたづらに吹く

「反」は「かへす」、「無用(尔)」は「いたづら(に)」と読んでいます。

字音によって書かれたものは一字一音で仮名文字と同じような機能を果たしていることと万葉集に

多く用いられていることから「万葉仮名」と呼ばれています。

●漢字の意味は関係なしに一字一音（万葉仮名）を用いた歌（巻14-3545）

原文	安須可河伯 世久登之里世波 安麻多欲母 為祢弓己麻思乎 世久得四里世婆
読下文	明日香川 塞くと知りせば あ また夜も 率寝て来ましを 塞くと知りせば

この歌では読下文の2句目と5句目は「塞くと知りせば」と同じですが、原文は違った文字の組み合わせになっています。文は漢字の意味は関係なく、音だけをあてはめているので同じ語句でも違った万葉仮名を組み合わせしており、この歌以外にも同じ音を複数の文字によって書き表す例が多く見られ、むしろ同じ文字の重複を避け

ようとする配慮さえ感じられます。

●万葉仮名の例

秋は安伎・安吉・阿伎、白は志路・思路・之路・之呂など、同じ単語でも幾通りもの万葉仮名を組み合わせて表記されています。

■生活の知恵－夏痩せに鰻－

大伴家持が吉田石磨の瘦せているのを笑う歌で、夏痩せには鰻が良いと歌っています。

石磨に われ物申す 夏痩に 良しといふ物そ 鰻取り食せ(巻16-3853)
鰻は万葉時代には「武奈伎(むなぎ)」と言っていました。

4回にわたって万葉びとの知性について見てきましたが、知性豊かな人々が万葉の時代を生きていたことがわかり、原文で見ると更に万葉集が面白くなるのではないのでしょうか。（米谷 潔）

シリーズ「會津八一（続）」

◎法隆寺「五重塔をあふぎみて」



ちとせあまり みたびめぐれる
ももとせを ひとつのごとく た
てるこのたふ
千年に余ること三たびめぐった百年
といふながい年月を闊して、しかも
それがまるで一日のことであつたか
のやうにさはやかに立っているこの
法隆寺の塔よ。

八一は法隆寺に関して多くの歌を詠んでおり、学位請求論文も『法隆寺法起寺法輪寺建立年代の研究』と

思い入れが強かったのですが、再建説に立っていたため、生前は歌碑を建てることが叶いませんでした。没後60周年の2年前の2014(平成26)年11月、五重塔を望む絶好の地に歌碑が建てられました。

歌が詠まれたのは、百年前の1920(大正9)年です。八一は東洋美術史学者としての立場より歌人としての感性を優先させたことから、自註で《その年代につきて学術的に決定して歌ひたるにはあらず》と書いています。

◎法隆寺「夢殿の救世観音に」

あめつちに われひとりみて た
つごとき このさびしさを きみ
はほほゑむ
天地の間に自分ひとりしか立つて
ゐないかのやうなこのさびしさを
あなたはほほゑんでいる。



再建された法隆寺(西院伽藍)は聖徳太子を記念するものでしたが、その後、斑鳩宮跡に作られた東院伽藍には、太子信仰を具体化するものとして、化身である救世観音が置かれました。

八一が太子に寄せる敬慕の念は深く、この像の微笑を特別なものと感じて歌に詠みました。歌碑は個人宅に設置されていましたが、五重塔の歌碑の建立にあわせて、東院伽藍に移設されました。（池内 力）

奈良マラソン 2021 を走ってみて



昨年の12月、奈良マラソンが2年ぶりに開催されました。毎回参加してきた私にとっても2年ぶりのフルマラソン。走れることがとにかく嬉しくて、その喜びを噛みしめつつ、キツイ坂道に苦戦しながらも無事最後まで走り切ることができました。

奈良マラソンは平城遷都1300年祭の一環として始まった市民マラソンです。平城宮跡などの

世界遺産がコースに取り込まれていたり、奈良公園の鹿を見ながら走れたり、奈良らしさを体感できるマラソンとして高い人気を誇っています。

加えてランナーから高い評価を得ているのが大会の運営面です。スタッフやボランティアの方々、そして沿道の応援に対して、毎回感謝の言葉がネットに溢れてきます。

私も毎回思うのですが、沿道からの応援は本当に素晴らしいのです。苦しくても頑張れる何よりの原動力になります。

ただ今大会はコロナ渦での開催。沿道の方とのハイタッチも、名物応援も禁止になりました。そんな中でも相変わらず沿

道の応援は温かく、例年以上に元気と感動を貰って走ることができました。

そして奈良マラソンは、大会後の感染報告もなく無事に終了。年明けに感染が再拡大したことを考えても、この成功は一つの奇跡を見た気がします。

ソムリエの会からも何人かの方が参加されたとお聞きしました。きっと充実した時間を過ごされたことと思います。今年もどうなるか分かりませんが、これだけの困難を乗り越えた奈良マラソンの未来は明るいです。貴重な奈良のスポーツイベントとして、末長く続いていくことを願ってやみません。

(磯兼 史洋)

お大師様の贈り物



昨年、私は四国歩き遍路の旅をしました。現在その手段は様々ですが、歩き遍路は、健康・時間・お金の3つが必要な為、一番贅沢な遍路と言われています。健康な体と少しのお金、退職して時間も手にした私は、ただ歩きたくて四国へ向かいました。奈良にもゆかりの地はありますが、讃岐善通寺で生まれ88ヶ所を開創されたの

が弘法大師空海、お大師様と伝わります。その伝説が残る道を、雨の日も風の日も、未知の山道を独り歩く恐怖と戦い、道に迷い、足が痛くても、7Kgのリュックで腕の血が止まりそうでも(笑)1日30km、時には40km。全1200kmを歩き、お遍路さんと呼ばれた40日間。辛くても歩ける事がとにかく幸せでした。人生変わるって方もいたけど、私はいつまでも未完成で一生修行です。だけどお遍路は誰もがができる事ではない有難い経験でした。

お大師様と共に歩む事を意味する同行二人と言う言葉は、私にとって心の中の大切な人や、道中お気を付けてと言いつけた人達で

す。妻がこうなって…と写真を胸に歩く方。お接待させて下さい！と手作りのお地藏様をくれたご夫婦。500円玉を握らせてくれたおばあちゃん。書ききれない程のご縁。大切な人に話したい事や見せたい景色に何度も出逢った事も、預けられた命に感謝して拘らずに今を生きるという事も、全てきつと今の私に必要な事。お大師様はそれを与えてくれたのです。今思えば、一目惚れして奈良に移住した時のように四国に導かれたのかもかもしれません。お遍路は結願しましたが、私はこれからも若き日のお大師様が歩いた奈良を旅します。

(佐々木 むつみ)

シリーズ「奈良スケッチ紀行」～水彩画で巡る名所・旧跡～

第4弾 法隆寺と聖徳太子

昨年 2021 年は聖徳太子の 1400 年忌の節目の年となりました。今回の投稿は年内に執筆しておりますが、この 36 号が発行される 2 月には、ちょうど毎日新聞「かるたで知るなら」の私の担当である「せ」の札が掲載される予定ですので、テーマを「法隆寺」とさせて頂きました。

まずコーナーの表題に「水彩画で巡る」とありますが、私はもともとペン画を描いておまして、周りの要望により色付けをするようになりました。自身はモノクロの絵を好みます。こちらは点描画と言いまして、線ではなくすべて点のみで完成

させたものです。法隆寺の持つ荘厳と落ち着きは、色がない方が合っているように思います。

さて太子の生誕記念については、各地で様々なイベントが開催されましたが、昨今では教科書からその名前が消えたり、存在や功績までを否定する風潮さえあ

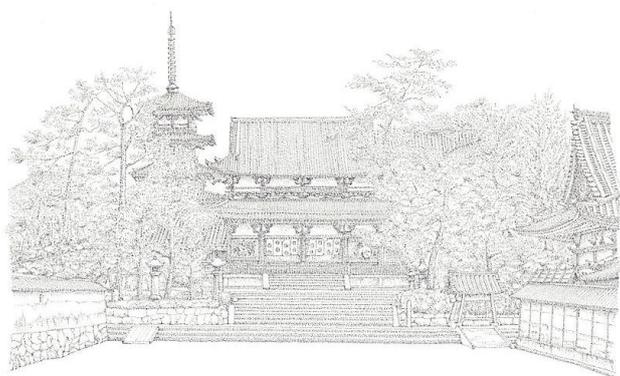
ります。1 万円札イコール聖徳太子と言う時代を生きる世代にとっては、寂しい限りです。

そんな中、夢殿の秘仏である救世観音には、何も言

われずとも聡明で心優しい聖徳太子の面影を感じずにはられません。

* YouTube「奈良とびっきり観光ガイド」では、「法隆寺」を 2 回に分けてご案内しております。是非一度ご覧ください。

(広報 G 佳山隆生)



寄付金のお願いをいたしましたところ、会員の皆様からたくさんのご寄付をいただきました。誠にありがとうございました。引き続きご支援、よろしく申し上げます。2022.1.19 現在・敬称略・市町村別 50 音順 池川慎一、磯兼史洋、大谷英雄、澤崎雄介、塩崎ヒデミ、清水千津子、鈴木浩、玉村昇司、鉄田憲男、西田裕美、福井正、藤永泰雄、増田優子、宮川勲、毛利明、本井良明、安川暁美(以上・奈良市)、小野哲朗、田原敏明、徳南毅一、松村俊夫、水間充(以上・生駒市)、木村三彦(橿原市)、平越真澄(香芝市)、東田好史(桜井市)、金星衛(天理市)、浅井博明、大江弘幸(以上・大和郡山市)、桐山起世子(斑鳩町)、中田忠秋、橋爪生雄(以上・王寺町)、藤田順一(上牧町)、旭堂南龍(大阪市)、柳原恵子(堺市)、花房孝一(羽曳野市)、生井澤則子(茨城県鹿島市)、森屋美穂子(静岡県焼津市) 以上 37 名、匿名ご希望の方: 5 名 合計 42 名 寄付金計: 768,100 円



『奈良町の南玄関―歴史と文化の扉をひらく』元興寺文化財研究所編
令和元年、JR 桜井(万葉まほろば)線京終駅駅舎が明治31年(1898)開業時の姿に復元されました。新たな地域文化の拠点として生まれ変わり、この地域への関心が高まっています。個性あふれる地域性を歴史的に形作ってきた奈良町南部地域について、古代から近代までの歴史と文化を紹介するものです。元興寺文化財研究所を中心とする専門家と、地域づくりを担ってきた有志とが協働し、多くの住民の方々のご協力を得てこの地域に残された資料を掘り起こし、古代から近現代までの歴史と、今に受け継がれている産業や生活・信仰文化をまとめた 1 冊です。

奈良の魅力を奈良人が奈良から発信!! 京阪奈新書、あをによし文庫、奈良ガイド、自費出版 **京阪奈情報教育出版** 検索

<編集後記>

新型コロナウイルスがなかなか収まりませんね。コロナ以外の明るい話題があふれるようにしたいですね。

(広報 G) 磯兼・風間・柏尾・梶尾・佳山・窪田・小林(誠)・島田・中村・廣岡・二上・福岡・藤田・増田・松森・吉川



特定非営利活動法人 奈良まほろばソムリエの会

事務所所在地: 〒630-8217 奈良市橋本町 3-1 きらっ都・奈良 (BONCHI)

ホームページ: <http://stomo.jp/>

メールアドレス: info@stomo.jp

つれづれ日記 (ブログ): <http://nara-stomo.seesaa.net/>



HP の QR コード